

染織家招き 野染め体験

京都市左京区の染織家、齋藤洋さん(左)＝横浜市出身＝を招き、子どもたちに野染めを体験してもらった。イベントが二十一日、川崎市高津区の市子ども夢パークで開かれた。不登校の児童・生徒の居場所を作ろうと同区で活動するNPO法人「フリースペースたまりば」(川崎市高津区)の主催で、子どもたち約百人が参加。齋藤さんが東日本大震災被災地で集めた草花などで作った染料を使い、約三十坪の木綿の布二枚を美しく染め上げた。(平木友見子)

市子ども夢パーク 被災地の草花など染料に



染め方の説明をする齋藤さん

齋藤さんは「被災者の話を受け止められる場を作りたい」と一カ月前半に一度ほどのペースで、岩手県内の被災した障害者施設などを

この日も同県大船渡市などを回った帰途、被災地で集めたヤマブ

訪れ、野染めや編み物などのワークショップを開いている。震災で亡くなった家族らへの思いを託して布製のチヨウを縫う「メモリアルキルト」の作製に携わるほか、三陸沿岸で行われている「手しごと」を紹介する展示会なども開いている。

初めて野染めに挑戦した門田詩菜さん(右)は「黄色や茶色のイメージが強かったけれど、ヤマブドウやキハダがこんなきれいな色になるなんてびっくり。乾いたらどんな色になるか楽しみ」と笑顔。齋藤さんは「化学染料に比べ、頼りない色だが、草木によって微妙に違う色合いを味わってもらえれば」と話していた。



約30坪の布に色を付ける参加者＝いずれも高津区で